

平成29年度第3回花巻市行政評価委員会（人づくり・地域づくり部会）会議録

1 開催日時

平成29年7月13日（木） 午後3時30分～午後5時

2 開催場所

花巻市役所3階 小会議室

3 出席者

(1) 委員 6名

堀籠部会長、高橋勉委員、高橋誠委員、久保田武司委員、久保田廣美委員、板垣委員

(2) 説明者（施策主管課） 1名

中村生涯学習課長

(3) 事務局（施策及び事務事業評価担当課） 2名

秘書政策課：企画調整係瀬川上席主任

財政課：経営財務係高橋主任

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「自主的学習の推進」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

高橋誠委員：成果指標「市民一人当たりの図書貸出数」が年々減少しているが、これは紫波町の図書館に利用者が流れているからなのか。

中村課長：以前は紫波町から花巻市の図書館に来ている人がいたが、紫波町に図書館ができてからは紫波町から来る人が減っている。

高橋勉委員：場所や地域の文化にもよる。宮守の道の駅に図書館ができたそうだが、利用者は少ないようである。

中村課長：実際に来てもらえるような図書館を目指し、新しい図書館の建設地を検討しているところである。

高橋誠委員：図書館を新設しただけでは利用者は増えないと思う。

高橋勉委員：若者魅力アップセミナー開設事業は良い取組である。婚活の前に自分を磨くことが必要。

板垣委員：図書館のボランティアはどのような人が携わっているのか。

中村課長：組織を作って対応している。

板垣委員：生涯学習関連施設はいくつあるのか。

中村課長：後ほど回答する。

※委員会の評価結果集約の後、事務局より4施設である旨回答（生涯学園都市会館、市民の家、石鳥谷生涯学習会館、石鳥谷好地会館）。

板垣委員：若者魅力アップセミナーは地域づくり課（平成29年度からは定住推進課）の婚活事業と連携しているのか。

中村課長：担当者間の情報共有などの連携はある。

板垣委員：社会教育指導委員は有資格者をお願いしているのか。どのような経歴の人なのか。

中村課長：退職した校長先生や、市職員OB、公民館に従事していた方などで、資格は重視していない。ただし、図書館においては図書館司書の資格のある方である。

板垣委員：平成28年度から振興センター単位で生涯学習事業を行っているが、コミュニティ会議への交付金の算定方法はどうなっているのか。

中村課長：振興センターでの取組実績に応じて算定している。

板垣委員：地域で生涯学習事業を展開する上での課題をもっと詳しく知りたい。

中村課長：平成27年度までは市職員が実施していたため、どうやって良いかわからないという声があり、市で3回ほどコミュニティ会議の方を対象に研修会を実施した。

高橋誠委員：生涯学習講座に若い人が参加することは現実的ではない。どのように周知しているのか。

中村課長：広報や口コミが主な周知方法である。

久保田武司委員：生涯学習講座開催事業や若者魅力アップセミナー開設事業の参加者数を把握しているか。

中村課長：データはあるが、今回用意していなかった。

※参加者に聞き取り、若者魅力アップセミナー開設事業の参加者は1回当

たり平均10人前後である旨回答。

高橋誠委員：参加者数を把握できていないのは問題である。

久保田武司委員：「読書おもいで帳」は誰に交付するのか。

中村課長：小学生の希望者に交付する。一般には交付していない。

高橋勉委員：ふれあい出前講座については、農協でも類似事業を実施している。登録者も多いため、市と連携することでより充実した講座ができると考える。

久保田廣美委員：講師の登録をしても一回も声がかからない人がおり、そのことが登録者数の増加を阻んでいると考えられる。声がかかる講師が偏らないよう、市側から新たな講師を紹介することも必要ではないか。

堀籠部会長：成果指標の達成状況に記載の「教えることに不安を持っている」はどういった根拠によるものか。

中村課長：実際に講師をした方の声である。そのため、一般の方に教える前に、内部で勉強会をすることなどを検討している。

高橋誠委員：インストラクターの養成のための事業があった方が良いのではないか。

中村課長：参考とさせてもらう。

堀籠部会長：施策の総合的な評価において、2つの課題に対して3つの方向性があり、方向性の3つ目（図書館の整備）に対応する課題が抜けている。

中村課長：施策を構成する事務事業の検証の記載内容からつなげてしまった。

板垣委員：県立生涯学習推進センターとの事業連携はあるのか。

久保田廣美委員：コミュニティ会議の事務担当者を派遣している。

板垣委員：そのことは事務事業評価シートに記載していないのか。

中村課長：事務事業にはしていない。

久保田武司委員：生涯学習活動支援事業において、ふれあい出前講座を428回も実施しているのに、成果が「C」というのは厳しいのではないか。

瀬川上席主任：事務事業評価シートの成果指標で目標値に対し、実績がマイナス10%を下回ると「C」判定とする基準があり、それがそのまま施策評価シートへ反映されている。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シート】

◇①施策を構成する事務事業の評価・検証について

→ 貢献度の評価は一覧に記載があるものについては的確である。ただし、新花巻図書館についても事務事業一覧に記載して評価対象とすべきである。

事務事業の検証については、「市民ニーズの多様化」などの記載の根拠が不明である。また、生涯学習講座開催事業については、市と農協との連携や役割分担により成果の向上を図るべきである。1

◇②施策の成果指標及び達成状況の分析について

→ 成果指標の1つ目「生涯学習講師新規登録者数」については、成果指標として適切でない。講師数ではなく参加者数を成果指標にすべきである。

◇③施策の総合的な評価について

→ 成果指標が適切ではなく、事務事業の検証が不十分なので、総合的な評価も的確でない。また、課題と方向性は対応させるべきである。

◇④シート記載内容について

→ データ等の具体的な根拠に基づかない記載が多い。また、現象の記載のみで踏み込んだ具体策がない。

【その他】

板垣委員：生涯学習の事業は教育委員会から市長部局へ移したものである。それで成果があがらないのであれば、もとに戻したほうが良いのではないか。